

10円ショート バスの椅子

いろさわ えみ

外出した帰り道 いつものバスに乗り込んだ。

私は 空いている席を探した。

今日はとてもついている。1つだけ席があいていた。

ああ 64歳にもなると体がしんどい

私は空席に向かって歩き出した。

歩き出した矢先

後から乗ってきた中学生が私を追い越した。

「やった！あいてたー！」

——どすん

坊主頭の中学生は 勢い良く座った。

ムカッとした私に中学生が叫んだ。

「おばあちゃん！！」

びっくりして私は目を丸くした。

その直後 私の後方からお婆さんが現れた。

90歳を超えているだろうか 私なんかよりも本当のお婆さんである。

「おばあちゃんあいてたよ 椅子！」

中学生は満面の笑みでおばあちゃんに椅子を譲り渡した。

「ありがとう」

お婆さんも しわくちゃの笑顔を返した。

一瞬 イラだってしまった私は 自分が恥ずかしくなった。
私はまだまだ元気なのだ。

しんどかったはずの体は その日はとても軽く感じて
自宅まで清しい気持ちで帰った。